

A. 日時 2013 年 2 月 25 日（月）17 時 00 分～18 時 40 分

B. 場所 建築学会会議室

C. 出席者 岩本 毅，岡野利行，古賀貴士，坂本慎一，佐久間哲哉，田端 淳，中澤真司，永松英夫，羽入敏樹，濱田幸雄，平光厚雄，峯村敦雄，宮島 徹，横山 栄（敬称略）

欠席者 安藤 啓，井上勝夫，大島拓也，吉村純一（敬称略）

D. 提出資料

2012 年度第 4 回音環境運営委員会議事次第

No. 4-0 2012 年度第 3 回音環境運営委員会議事録（案）

No. 4-0-1 2012 年度音環境運営委員会メール審議記録（案）

No. 4-1 環境工学本委員会報告資料

No. 4-2 2012 年度小委員会活動成果報告

No. 4-3 2013 年度小委員会名簿

No. 4-4 研究・提言部会 第 2 次提言案

E. 議事

1. 議事録の確認

1.1 前回議事録の確認（資料 No. 4-0）

- ・ P1 の C. 出席者：峯村敦雄委員を追加
- ・ P4 の 7 行目：濱田主査に提出した要領で →濱田主査に要領を提出し、

1.2 メール審議記録の確認（資料 No. 4-0-1）

- ・ P1 の C. 回答者：（委員名を示さず）“音環境運営委員会委員 18 名中 15 名”とする。
- ・ P2 の 6 行目：“入るのはおかしい”を“違和感を感じる”に修正
- ・ P2 の 7 行目：“異種の指針”を“複数の指針”に修正
- ・ P2 の 14 行目：“AIJES と提供”を“AIJES を提供”に修正
- ・ P2 の 16 行目：“イメージを与えるので避けるべきだ”を“イメージを与える”に修正

2. 環境工学本委員会の報告（資料 No. 4-1）

2.1 報告事項

(1) 学術推進委員会（12/5）報告

- ・ 2012 年度大会の延べ参加者数が発表題数より少ない部門があるが、発表者を除く人数を示している。
- ・ 2012 年度大会において、環境工学 I の教室で聴講者が溢れていたことに対し、来年度は対応を考える旨、報告があった。

- ・ 2012 年度大会の研究協議会、研究懇談会の資料はほぼ完売している。
- ・ 2012 年度大会の大会研究集会の無償公開に関するアンケート結果では、公開するという意見が多かった。
- ・ 第 51 回竹中育英会建築研究助成金交付者が決定し、環境工学から 2 件が採択された。
- ・ 大会プログラム編成会議の委員選任にあたり、旅費経費の節減にご配慮いただきたい。
- ・ 調査研究委員会広報委員の指名については、慣例にしたがい第 1 幹事の方に委嘱する。
- ・ 2013 年度大会の細分類・細々分類一覧の最新版が掲載されているので、ご確認いただきたい。
- ・ 2013 年度大会の研究協議会が 2 日目午後、研究懇談会が 3 日目午前に予定されている。
- ・ 2013 年度技術部門設計競技において、農村計画委員会の提案が採択され、環境工学委員会の提案は不採択となった。不採択の理由として、2050 年の設定の具体性が乏しかったことが挙げられた。
- ・ 2013 年度調査研究委員会予算配分案について、環境工学は 11,132 千円（2012 年度より-1,312 千円減、-11%）となっている。構造は講習会が多く、その実績が評価され、前年度比-2%に留まっている。
- ・ 予算配分基礎データ算定にあたり、大会発表題数、新刊出版物、講習会、シンポジウムの実績が反映されている。
- ・ 予算消化率について、環境工学は 2010 年度が 67.33%、2011 年度が 85.39%となっている。
- ・ 学会活動の活性化に向けた取り組みとして、スカイプによるインターネット会議の促進、実効ある予算配分、委員会資料の電子化（ペーパーレス化）が提案された。また、委員会旅費について、証憑類の提出義務化があげられたが、環境工学本委員会では実行するのが難しいのではないかとの意見があった。
- ・ 若手会員の活動の場の創設タスクフォース提言として、「若手対象の各種奨励賞の新設」、「学生や若手を中心とした広報活動・交流の場の創設などの検討委員会」、「若手会員を対象としたアドバイザープラットフォームの創設」などが指摘され、「各種奨励賞の新設」については、修士課程以下の学生を対象として 2013 年度大会から実施する計画がある。
- ・ 日本学術会議若手アカデミー委員会では、国内の若手研究者が新たな取り組みを行う場合の情報共有を円滑に進めるため、その基盤となる主幹的組織を 2012 年度中に立ち上げる準備を進めている旨、報告があった。

(2) 東日本大震災関連

- ・ 研究・提言部会および震災対応 WG から、第 2 次提言案が提出されており（資料 No. 4-4）、意見があれば、各自、田辺主査に連絡していただきたい（後日、濱田主査から田辺主査のメールアドレスを連絡する）。
- ・ 大震災合同調査報告書編集委員会および環境工学 WG において、東日本大震災合同報告書（建築）の執筆依頼中で、4 月 26 日が 1 次原稿締切となっており、必要に応じて各運営委員会に査読を依頼予定であり、ご対応いただきたい。
- ・ 2013 年 3 月 27 日～29 日に東日本大震災 2 周年シンポジウムの開催を予定しており、ぜひご参加いただきたい。

2.2 審議事項

(1) 各種委員会委員推薦

- ・ 論文集委員会委員（全 11 名）について、6 名の新任委員を選任する。音環境担当は羽入先生が留任となり、投稿論文数に応じて水環境から 2 名新任委員を選任することとし、音環境からは新任なしとする。
- ・ 技術報告集委員会委員（全 8 名）について、水環境・都市環境・音環境・設備担当の 4 名が改選となり、

3月8日までに選任結果を事務局に報告していただきたい。

→投稿実績を考慮して、主査、幹事で候補者を選任の上、委員に提示するので、審議をお願いしたい。

- ・ 論文集について、手直しなしの再投稿の扱いを検討することとなった。
- ・ 技術報告集について、(時間がかかるため) 評論をなくせないか検討していきたい。

(2) 2013 年度大会

- ・ 研究協議会および懇談会の発言者が承認された。研究懇談会「U-40 が語る環境工学研究の最前線と分野連携-これから 20 年のビジョン-」について、音環境から神戸大学の佐藤逸人先生を推薦し、承認された。
- ・ オーガナイズドセッションは概要が web 登録となり、会員番号の入力が必須となっている。

(3) 環境工学委員会 2013 年度予算配分

- ・ 音環境運営委員会は 545 千円 (-79 千円減)。3月8日までに配分を決定する。

(4) 刊行物の出版承認について

- ・ 久野先生より、今後、出版物拡販のため、環境工学ホームページに出版物リストを掲載し、新刊はメールマガジンに掲載する計画であることが報告された。

(5) シンポジウム実施報告・実施計画

- ・ 第 71 回音シンポジウム「インパルス応答測定に基づく室内音響指標の算出に関する現状と課題-音響指標ベンチマーク問題の作成に向けて」に関する実施報告が承認された。

(7) 委員の委嘱・解嘱について

- ・ 会員外委員の委嘱について、音響数値解析小委員会から廣澤邦一氏(日東紡音響エンジニアリング)、室内音響小委員会から藤原舞氏(ヤマハ)、船場ひさお氏(フェリス女学院大学)に委嘱があり、了承された。

2.3 その他

(1) 予算の執行状況

- ・ 音環境運営委員会全体の使用率は 68%で、年度内に消化できる予定。残額が 25 万円程度あり、旅費が必要な場合、早めに濱田主査までご連絡いただきたい。

3. 審議事項

3.1 2013 年度研究懇談会(大会時)講演者について(メール審議済み)

- ・ 各小委員会から推薦していただいた結果を幹事で審議の上、音環境として、神戸大学の佐藤逸人先生を推薦することとし、承認された。

3.2 2012 年度小委員会活動成果報告自己評価書について(資料 No. 4-2)

- ① 固体音小委員会(中澤主査): 評価 A
- ② 集合住宅の遮音性能評価水準検討小委員会(岩本主査): 評価 B
- ③ 建築音響測定法小委員会(宮島主査): 評価 A
- ④ 室内音響小委員会(羽入主査): 評価 A
- ⑤ 音響数値解析小委員会(坂本主査): 評価 A
- ⑥ 音環境規準検討小委員会(古賀主査): 評価 A

3.3 次年度、運営委員会・小委員会・WG名簿について（資料 No. 4-3）

- ・音環境運営委員会（岡野主査）：委員 19 名、公募予定なし
- ・小委員会
 - ① 固体音小委員会（稲留主査）：委員 15 名交代なし、公募予定なし（中澤主査）
 - ② 集合住宅の遮音性能評価水準検討小委員会（岩本主査）：委員 12 名交代なし、公募予定
 - ③ 建築音響測定法小委員会（杉江主査）：新任 2 名を加え、委員 14 名、公募予定なし（宮島主査）
 - ④ 室内音響小委員会（佐藤史明主査）：委員 15 名（羽入主査）
→会員外委員には勧誘をお願いしたい。
 - ⑤ 音響数値解析小委員会（坂本主査）：新任 3 名を加え、委員 15 名。
 - ⑥ 企画・広報 WG（中澤主査）：新任 1 名を加え、委員 14 名（峯村主査）

4. 各小委員会・WGの活動報告

① 固体音小委員会（中澤主査）

12 月と 2 月に委員会を開催した。東大生研で実施された聴感実験の結果について紹介があった。床衝撃音を A 特性で測定・評価する際の L と A との対応、オクターブバンド毎に計測した結果と直接計測した結果の対応等について、文献調査を実施している。年度内に後 1 回委員会を開催して取りまとめを行う予定。

WG では、引き続き、国内外の文献調査を進めている。2 月 8 日に清水建設新社屋を見学した。

② 集合住宅の遮音性能評価水準検討小委員会（岩本主査）

11 月 14 日、1 月 16 日に委員会を開催した。最近の集合住宅の生活音に関わる性能について、集合住宅初期（1970 年代の集合住宅を対象とした昭和 52 年の総プロで報告された騒音総暴露量 PNL に関する測定結果）と比較した。最近の建物においては 24 時間換気を実施しており、40 年でどの程度変化したか、OS で報告予定。

OS は 6 編を予定。うち 1 編は井上先生に依頼中。3 月 1 日が web 登録締切。

③ 建築音響測定法小委員会（宮島主査）

11 月 21 日に委員会を開催し、ランキングについて、今後どのように取り組んでいくか議論した。今年度大会 OS においてランキングに関するアンケート結果を報告したが、実務的な測定法の検討例は少なかった。現在、事例収集や測定法の検討を進めている。

次回は 3 月 18 日に開催予定。

④ 室内音響小委員会（羽入主査）

12 月 19 日に委員会を開催した。次回は 3 月 5 日に開催予定。

音響指標測定 WG は、11 月 9 日に開催した。11 月 27 日にシンポジウムを開催し、40 名が参加した。参加者ほぼ全員が「参考になり、有意義であった」と回答した。参加者は企業、大学、学生から 1/3 ずつであった。シンポジウム開催情報の入手方法はホームページ 30%、メーリングリスト 25%であった。シンポジウムの成果を元に 6 月を目途にベンチマークを作成。6 月開催の ISRA にて WG の成果を公表予定。

スピーチプライバシー研究 WG は 12 月 10 日に開催した。2 月 22 日に第 72 回音シンポジウムを開催し、59 名が参加し盛況であった。来年度以降は、設計手法や規準作成を目指して活動を続ける。

事例集 WG：11月26日に第2回を開催した。利用者に対しヒアリングを実施して、議論している。
→10月末までに本委員会に諮る必要があり、日程を考慮して活動を進めていただきたい。

⑤ 音響数値解析小委員会（坂本主査）

12月25日に委員会を開催した。境界条件のデータベース作成に関する議論を行った。次年度は廣澤邦一氏に協力を要請した。新しいベンチマーク問題に関する検討を行った。

音響数値解析ソフトウェアの調査開発 WG で、次年度も実装を中心としたチュートリアルを企画している。

⑥ 音環境規準検討小委員会（古賀主査）

2月14日に委員会を開催し、2月26日に第73回音シンポジウム「集合住宅の遮音性能規準と遮音設計指針」を開催する。集合住宅以外の遮音設計規準について、来年度以降、WG を立ち上げて検討する予定。建物用途別に個別に規準を検討する予定であったが、学校、集合住宅以外の建物はまとめる方針に変更して進めている。

⑦ 企画・広報WG（峯村主査）

12月2日、2月22日にWGを開催した。データベースおよび検索システムはほぼ完成しており、年度内には案内できる予定。「住まい方マニュアル」について、出版社2社にヒアリングを実施し、技報堂と意見交換を行った。今後、ターゲットを検討し、目次を作成する。来年度、本委員会開催日程を考慮して活動を進めていきたい。次回は4月で調整している。

⑧ その他：

特になし

5. 他学会・研究会の予定

・ 建築音響研究会

3月8日 大阪フェスティバルホール見学

3月28日 アクトシティ浜松

4月22日 キャンパスイノベーションセンター（田町）

6. その他

特になし

7. 次回予定

本委員会開催日が確定してから、次回開催日を検討する

以上